

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、III、V】
2 実施対象者	みなみの杜高等支援学校 1年4～7組 32名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 保健体育 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラスポーツ体験を通して障がいについての理解を深めたり、知識を得たりする。</li> <li>・他者を受け入れ、理解し、相手を尊重する心を育む。</li> <li>・パラリンピアンであり、東京2020大会出場を目指す現役選手の講演を聞き、夢を追い続ける原動力を学ぶ。</li> </ul>
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の時間で、2016リオパラリンピック水泳競技200m自由形に出場された宮崎哲選手を講師にお招きし、講演会を実施。</li> </ul> <p>○指導計画 [8時間扱い] 「保健体育」6時間(2時間×3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラインドサッカーの競技特性を学ぶ。</li> <li>・ブラインドサッカー体験。(マンツーマン体制で実施。一人はアイマスクを着用して目の見えない世界を体験。目の見える人はサポート体験。)</li> <li>①アイマスクムカデ競争</li> <li>②音の鳴るボールタッチタッチ競争</li> <li>③足でドリブル、パス、シュート</li> <li>④1対1のゲーム</li> </ul> <p>「保健体育」2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会を体育館で実施。講演後は、講師から水泳に有効なストレッチを紹介していただき、生徒も一緒に体を動かした。最後は、講師も生徒のチームに加わってフロアーホッケーのゲームを楽しんだ。</li> </ul>

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の見えないスポーツを体験し、パラスポーツへの理解を深めたり、知識を得たりすることにつながった。</li> <li>・相手に伝わる言葉や相手を理解するためのコミュニケーションの取り方、相手の立場に立って物事を考えることを学び、行動する場面が見られた。</li> <li>・パラリンピアン、東京2020大会出場に向けてチャレンジを続ける現役選手、そして何より地元の選手でもある講師の話聞き、仕事と競技スポーツの両立、夢を追い続ける心の強さを学んできた。</li> <li>・ストレッチや軽スポーツで体を動かし、触れ合うことで、宮崎選手への関心と応援する気持ちを高めることにつながった。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピック出場を決めた予選会のレースの映像は、結果を知っているにもかかわらず胸が苦しくなるほどの臨場感があった。生徒たちも画面に向かって食い入るような視線で応援していた。講師と生徒とが直接触れ合うことのできる数少ない機会をより有意義にするために、もう少しディスカッションする時間を設けることができると良かった。</li> <li>・今回はパラスポーツとパラリンピックという接点でのつながりであったが、保健体育の既習との関連から考えると、視覚にハンディを抱えるスポーツ選手を講師にお招きし、ブラインドサッカーやゴールボール等を一緒に体験することで、より深い学び、気づき、新しい発見につなげることができると考える。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。